

CLUSTERPRO[®] X
Alert Service 1.0 *for Linux*

管理者ガイド

2006.12.12
第2版



改版履歴

版数	改版日付	内容
1	2006/09/08	新規作成
2	2006/12/12	CLUSTERPROロゴを変更しました。

© Copyright NEC Corporation 2006. All rights reserved.

免責事項

本書の内容は、予告なしに変更されることがあります。

日本電気株式会社は、本書の技術的もしくは編集上の間違い、欠落について、一切責任をおいしません。

また、お客様が期待される効果を得るために、本書に従った導入、使用および使用効果につきましては、お客様の責任とさせていただきます。

本書に記載されている内容の著作権は、日本電気株式会社に帰属します。本書の内容の一部または全部を日本電気株式会社の許諾なしに複製、改変、および翻訳することは禁止されています。

商標情報

CLUSTERPRO[®] X は日本電気株式会社の登録商標です。

FastSync[™]は日本電気株式会社の商標です。

Linuxは、Linus Torvalds氏の米国およびその他の国における、登録商標または商標です。

RPMの名称は、Red Hat, Inc.の商標です。

Intel、Pentium、Xeonは、Intel Corporationの登録商標または商標です。

Microsoft、Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

Turbolinuxおよびターボリナックスは、ターボリナックス株式会社の登録商標です。

VERITAS、VERITAS ロゴ、およびその他のすべてのVERITAS 製品名およびスローガンは、

VERITAS Software Corporation の商標または登録商標です。

本書に記載されたその他の製品名および標語は、各社の商標または登録商標です。

目次

はじめに	v
対象読者と目的	v
本書の構成 v	
CLUSTERPRO マニュアル体系	vi
本書の表記規則	vii
最新情報の入手先	viii
第 1 章 Alert Service の概要	1
CLUSTERPRO Alert Serviceとは?	2
Alert Service を使用するには	3
Alert Service の動作環境	3
Alert Serviceの使用開始までの流れ	3
Alert Serviceのライセンス登録	4
ライセンスファイル指定でライセンスを登録するには	4
ライセンスキーを入力してライセンスを登録するには	5
第 2 章 通報設定項目	7
通報の設定を行う	8
クラスタのプロパティから通報の設定を行う	8
サーバのプロパティから通報の設定を行う	9
設定内容をサーバに反映する	10
クラスタ構成情報を FD に保存する	10
FD を使用してクラスタを生成する	11
第 3 章 通報の内容	13
メール通報の動作	14
パトランプ通報の動作詳細	14
パトランプ消灯コマンド	14
clpdn1000s 14	
Alert Serviceのメッセージ一覧	15
正常な動作を示すメッセージ	15
設定誤りなどで発生するメッセージ	15
パトランプ通報処理の異常メッセージ	15
障害時のログ出力	16
付録 A 用語集	17
付録 B 索引	21

はじめに

対象読者と目的

『CLUSTERPRO X Alert Service 管理者ガイド』は、CLUSTERPRO を使用したクラスタシステムに、CLUSTERPRO Alert Service の導入を行うシステムエンジニアと、クラスタシステム導入後の保守・運用を行うシステム管理者を対象読者としています。本書では、CLUSTERPRO X Alert Service を使用したクラスタシステム導入時に必須の事項について、実際の手順に則して詳細を説明していきます。

本書の構成

- 第 1 章 「Alert Service の概要」: Alert Service の製品概要およびライセンスについて説明します。
- 第 2 章 「通報設定項目」: メール通報を行うため設定内容の詳細について説明します。
- 第 3 章 「通報の内容」: Alert Service の通報メールの内容やイベントログ内容について記述します。
- 付録 A 「用語集」: 本マニュアル内で紹介された用語の解説をします。
- 付録 B 「索引」: 本マニュアル内で紹介された用語の索引です。

CLUSTERPRO マニュアル体系

CLUSTERPRO のマニュアルは、以下の 4 つに分類されます。各ガイドのタイトルと役割を以下に示します。

『CLUSTERPRO X スタートアップガイド』(Getting Started Guide)

すべてのユーザを対象読者とし、製品概要、動作環境、アップデート情報、既知の問題などについて記載します。

『CLUSTERPRO X インストール & 設定ガイド』(Install and Configuration Guide)

CLUSTERPRO を使用したクラスタ システムの導入を行うシステム エンジニアと、クラスタ システム導入後の保守・運用を行うシステム管理者を対象読者とし、CLUSTERPRO を使用したクラスタ システム導入から運用開始前までに必須の事項について説明します。実際にクラスタ システムを導入する際の順番に則して、CLUSTERPRO を使用したクラスタ システムの設計方法、CLUSTERPRO のインストールと設定手順、設定後の確認、運用開始前の評価方法について説明します。

『CLUSTERPRO X リファレンス ガイド』(Reference Guide)

管理者を対象とし、CLUSTERPRO の運用手順、各モジュールの機能説明、メンテナンス関連情報およびトラブルシューティング情報等を記載します。『インストール & 設定ガイド』を補完する役割を持ちます。

『CLUSTERPRO X (製品別) 管理者ガイド』(Add-on Products Administrator's Guide)

管理者を対象とし、CLUSTERPRO で用意されている関連製品について、製品概要、設定方法などの詳細情報を記載します。以下の 5 冊があります。

『Alert Service 管理者ガイド』

『Application Server Agent 管理者ガイド』

『Database Agent 管理者ガイド』

『File Server Agent 管理者ガイド』

『Internet Server Agent 管理者ガイド』

本書の表記規則

本書では、注意すべき事項、重要な事項および関連情報を以下のように表記します。

注: は、重要ではあるがデータ損失やシステムおよび機器の損傷には関連しない情報を表します。

重要: は、データ損失やシステムおよび機器の損傷を回避するために必要な情報を表します。

関連情報: は、参照先の情報の場所を表します。

また、本書では以下の表記法を使用します。

表記	使用方法	例
[] 角かっこ	コマンド名の前後 画面に表示される語 (ダイアログ ボックス、メニューなど) の前後	[スタート] をクリックします。 [プロパティ] ダイアログ ボックス
コマンドライン中の [] 角かっこ	かっこ内の値の指定が省略可能であることを示します。	<code>clpstat -s[-h host_name]</code>
#	Linux ユーザが、root でログインしていることを示すプロンプト	<code># clpcl -s -a</code>
モノスペースフォント (courier)	パス名、コマンド ライン、システムからの出力 (メッセージ、プロンプトなど)、ディレクトリ、ファイル名、関数、パラメータ	<code>/Linux/1.0/jpn/server/</code>
モノスペースフォント太字 (courier)	ユーザが実際にコマンドラインから入力する値を示します。	以下を入力します。 <code># clpcl -s -a</code>
モノスペースフォント (courier) 斜体	ユーザが有効な値に置き換えて入力する項目	<code>rpm -i clusterprobuilder-<バージョン番号>-<リリース番号>.i686.rpm</code>

最新情報の入手先

最新の製品情報については、以下のWebサイトを参照してください。

<http://www.ace.comp.nec.co.jp/CLUSTERPRO/index.html>

第 1 章 Alert Service の概要

本章では、CLUSTERPRO Alert Service の概要を記述します。

本章で説明する項目は以下のとおりです。

- CLUSTERPRO Alert Serviceとは?.....2
- Alert Service を使用するには3
- Alert Serviceのライセンス登録4

CLUSTERPRO Alert Service とは?

CLUSTERPRO Alert Service は、CLUSTERPRO 上の業務の異常を遠隔地にいる管理者に通知する機能です。

通知方法は、以下の 2 つがあります。それぞれの通知方法によって、通知が行われる事象が異なります。

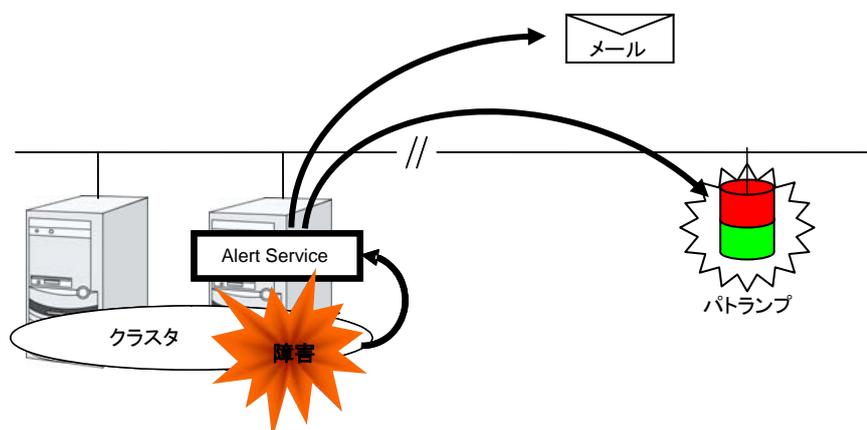
(1) E メール通報

WebManager のアラートメッセージが表示されるタイミングで、アラートの内容をメール通報します。

(2) パトランプ通報

サーバ起動時とサーバダウン時にパトランプ通報しサーバの状態を示します。サーバが正常に終了するときは、パトランプを消灯します。

メール通報とパトランプ通報は、お互いが独立して動作します。



【特徴】

- ◆ Eメール通報を行うので、管理端末から離れている場合でも、障害発生をいち早く検知することができます。
- ◆ メール送信先を携帯電話にすることも可能です。
- ◆ パトランプの警告灯点灯により、障害を視覚的に判断することができます。

本製品は、障害発生の一報を通報することが目的であり、CLUSTERPRO 上の障害の調査や原因究明を行うものではありません。障害が発生した場合、その詳細な原因は、CLUSTERPRO のログや、syslog など他の手段で原因を判断する必要があります。

Alert Service を使用するには

このトピックでは、CLUSTERPRO Alert Service の使用開始までの流れについて説明します。

Alert Service の動作環境

Alert Service は、下記の環境で動作します。Alert Service を使用するすべてのサーバで、各項目を確認してください。

Alert Service 動作環境	
ハードウェア	IA32サーバ、x86_64サーバ
OS	CLUSTERPROサーバの動作環境と同じ
CLUSTERPRO	CLUSTERPRO X 1.0 以降
必要メモリ容量	1.0 Mバイト

注:

メール送信を行うための SMTP サーバ、もしくはメール環境を別途ご用意ください。

パトランプ通報機能に対応するパトランプについては、弊社ホームページを参照ください。

Alert Service の使用開始までの流れ

Alert Service はライセンス製品です。CLUSTERPRO がインストールされたシステムに、ライセンス登録を行うことで使用可能になります。Alert Service 自体のインストールは必要ありません。

Step 1 アップデートの確認

CLUSTERPRO の最新アップデートがあるかを Web サイトなどで確認してください。存在する場合は、最新アップデートを既存のクラスタシステムに適用してください。アップデートの適用方法については、アップデート媒体に付随するアップデート手順に従ってください。

Step 2 ライセンス登録

CLUSTERPRO本体のインストール後、Alert Serviceのライセンス登録を行います。Alert Serviceのライセンス登録手順については、次の項の「Alert Serviceのライセンス登録」を参照してください。

Step 3 設定情報の登録

通報設定を行います。通報設定の内容については、「第 2 章 通報設定項目」を参照してください。

Alert Service のライセンス登録

CLUSTERPRO 本体のインストールおよび最新アップデートの確認が終了したら、ライセンス登録を行います。ライセンス登録は、クラスタを構成するサーバで、root 権限を持つユーザーで行います。ライセンスの登録方法には、ライセンスファイルを使用する方法と、ライセンスキーを直接入力する方法の 2 つがあります。

注:

ライセンスキーを使用する場合、Alert Service のライセンスはクラスタのサーバごとに異なるライセンスキーを登録する必要があります。複数のサーバに同一のライセンスキーを登録した場合、不具合が発生することがありますので、ご注意ください。

ライセンスファイル指定でライセンスを登録するには

製品版、または試用版のライセンスを入手している場合で、ライセンス ファイル指定によるライセンス登録の手順を示します。ライセンス ファイル指定によるライセンス登録は、クラスタ内の 1 サーバに対してのみ行うことで、クラスタ全体のライセンス登録が可能です。

- ◆ クラスタ生成コマンドが実行済である。実行していない場合は、『インストール&設定ガイド』の「第 4 章 CLUSTERPRO をインストールする」の「クラスタを生成する」を参照して実行してください。
 - ◆ クラスタ システムを構築しようとしているサーバの中で、マスタ サーバとして設定しようとしているサーバに root でログイン可能である。
 - ◆ ライセンス ファイルが、クラスタ システムを構築しようとしているサーバの中で、マスタ サーバとして設定しようとしているサーバの任意の位置に存在している。
1. クラスタを構築しようとしているサーバのうち、マスタ サーバとして設定しようとしているサーバに root でログインし、以下のコマンドを実行します。

```
# clplcncsc -i <filepath> -p <PRODUCT-ID>
```

-i オプションで指定する *filepath* には、ライセンス ファイルへのファイル パスを指定します。

-p オプションで指定する *PRODUCT-ID* には、製品 ID を指定します。以下の表に記載してある製品 ID を入力してください。

ライセンス製品名	製品 ID
CLUSTERPRO X Alert Service 1.0 for Linux	ALRT10

コマンド実行後、正常にコマンドが終了した場合は、コンソールに「Command succeeded」と表示されます。その他の終了メッセージが表示された場合は、『CLUSTERPRO リファレンスガイド』の「第 4 章 CLUSTERPRO コマンド リファレンス」を参照してください。

2. 以下のコマンドを実行し、ライセンスの登録状況を確認します。*PRODUCT-ID* には、本手順 1. で指定した製品 ID を入力します。

```
# clplcncsc -l -p <PRODUCT-ID>
```

ライセンスキーを入力してライセンスを登録するには

製品版のライセンスを保有している場合に、コマンドラインを使用して対話形でライセンスを登録する際の手順を示します。

本手順を実行する前に、以下を確認してください。

- ◆ 販売元から正式に入手したライセンス シートが手元にある。ライセンスシートは製品を購入すると販売元から送付されます。このライセンス シートに記載されている値を入力します。
- ◆ クラスタ生成コマンドが実行済である。実行していない場合は、『インストール&設定ガイド』の「第 4 章 CLUSTERPRO をインストールする」の「クラスタを生成する」を参照して実行してください。
- ◆ クラスタ システムを構築しようとしているサーバの中で、マスタ サーバとして設定しようとしているサーバに root でログイン可能である。

注: 本手順では、`clplcncsc` コマンドを使用します。`clplcncsc` コマンドの使用の詳細については、『CLUSTERPRO リファレンス ガイド』の「第 4 章 CLUSTERPRO コマンド リファレンス」を参照してください。

以下の 1. ~ 6. を、ライセンスを登録する全てのサーバで実施します。

1. ライセンス シートを手元に用意します。

本ステップでは、添付されているライセンス シートが以下の場合を例にとり説明を行います。入力時には、お手元のライセンス シートに記載される値に置き換えてください。

製品名	CLUSTERPRO X Alert Service 1.0 for Linux		
ライセンス情報			
製品区分	製品版		
ライセンスキー	A1234567- B1234567- C1234567- D1234567		
シリアルナンバー	AAA0000000		
ライセンス サーバ数	1		

2. ライセンスを登録するサーバに root でログインし、以下のコマンドを実行します。

```
# clplcncsc -i -p <PRODUCT-ID>
```

-p オプションで指定する `PRODUCT-ID` には、製品 ID を指定します。以下の表に記載してある製品 ID を入力してください。

ライセンス製品名	製品 ID
CLUSTERPRO X Alert Service 1.0 for Linux	ALRT10

3. 製品区分の入力を促す以下の文字列が表示されます。Product division (製品区分) は 1 の Product (製品版) ですので、1 と入力します。

```
Software license
  1 Product version
  2 Trial version
Select the license version [1 or 2]...1
```

4. シリアル No. の入力を促す以下の文字列が表示されます。ライセンス シートに記載されているシリアル No. を入力します。大文字と小文字は区別されますので気をつけてください。

```
Enter serial number [ Ex. XXX0000000 ] ... <AAA0000000>
```

5. ライセンス キーの入力を促す以下の文字列が表示されます。ライセンス シートに記載されているライセンス キーを入力します。大文字と小文字は区別されますので気をつけてください。

```
Enter license key  
[XXXXXXXX-XXXXXXXX-XXXXXXXX-XXXXXXXX] ...  
<A1234567- B1234567- C1234567- D1234567>
```

コマンド実行後、正常にコマンドが終了した場合は、コンソールに「Command succeeded」と表示されます。その他の終了メッセージが表示された場合は、『CLUSTERPRO リファレンスガイド』の「第 4 章 CLUSTERPRO コマンド リファレンス」を参照してください。

6. 登録したライセンスを確認します。以下のコマンドを実行します。*PRODUCT-ID* には、本手順 2. で指定した製品 ID を入力します。

```
# clplcncs -l -p <PRODUCT-ID>
```

以上で、CLUSERPRO Alert Service のライセンス登録は終了です。次章以降では、Alert Service の使用方法について説明します。

関連情報: コマンド終了メッセージの詳細については、『リファレンス ガイド』の 3 章のコマンド リファレンスにある、clplcncs の説明を参照してください。

第 2 章 通報設定項目

本章では、CLUSTERPRO Alert Service の設定情報を記述します。

本章で説明する項目は以下のとおりです。

- 通報の設定8
- 設定内容をサーバに反映する設定内容をサーバに反映する 10

通報の設定を行う

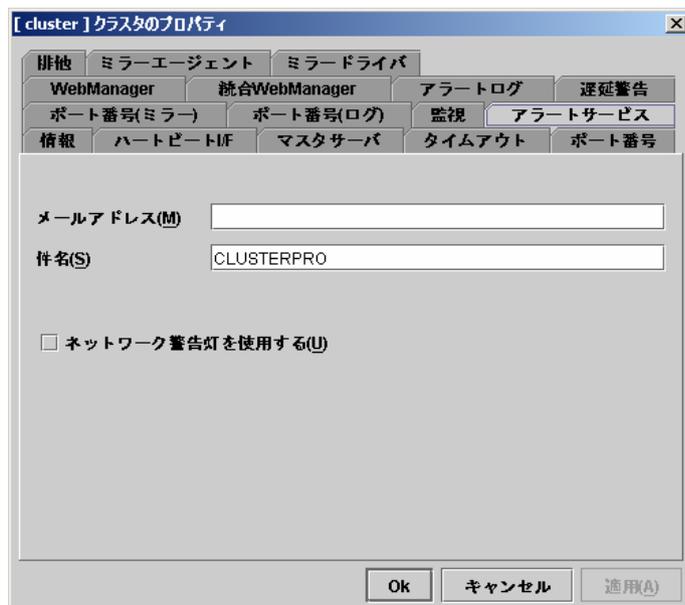
通報の設定は、Builder の [クラスタのプロパティ] タブおよび [サーバのプロパティ] タブから行います。

クラスタのプロパティから通報の設定を行う

以下に、通報の各設定項目の説明を記述します。最初に、[クラスタのプロパティ] で、通報の送信先の電子メールアドレスと、警告灯を使用するかどうかの設定を行います。

1. Builder を起動します。
(既定のパス: C:\Program Files\CLUSTERPRO\clpbuilder-1\clptrek.html)
2. ツリー ビューの [Cluster] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
3. [アラートサービス] タブをクリックし、表示されたダイアログで必要な設定を行います。

クラスタプロパティでの設定 ([アラートサービス] タブ)



メールアドレス

メール通報を行う場合、メールの送信先を指定します。

指定がない場合は、メール通報を行いません。

例: user1@mail.domain.com

件名

通報メールの件名を指定します。

どのクラスタからのメール通報であるか判別しやすいように、クラスタ名などを指定してください。

ネットワーク警告灯を使用する

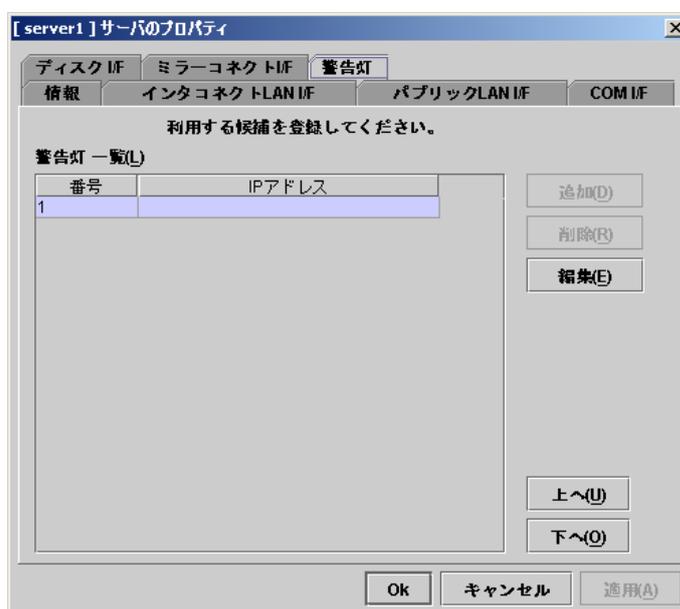
チェックを付けた場合、パトランプ通報を行います。

サーバのプロパティから通報の設定を行う

次に、サーバのプロパティから警告灯の設定を行う方法を説明します。

1. Builder からツリー ビューの [Server] をクリックし、サーバアイコンを表示します。設定したいサーバのアイコンを右クリックし、メニューの [プロパティ] をクリックします。
2. [警告灯] タブをクリックし、表示されたダイアログで必要な設定を行います。

サーバプロパティでの設定([警告灯] タブ)



IP アドレス

指定したサーバ用のパトランプの IP アドレスを指定します。

1 サーバにつき 1 つ指定します。複数のサーバで同一の IP アドレスを指定することも可能ですが、サーバごとにパトランプを用意することをお勧めします。

なお、パトランプ通報を行わない場合は、指定は不要です。

設定内容をサーバに反映する

設定が完了したら、設定内容をサーバに反映します。

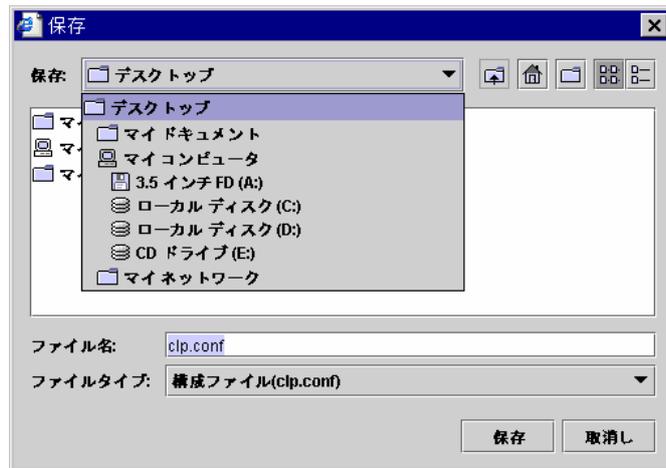
Windows 上の Builder で保存したクラスタ構成情報をサーバに反映する場合を例に取り説明します。

関連情報: Linux マシン上にインストールされている Builder を使用している場合、またはクラスタ構成情報をファイルシステム上に保存する場合については、『インストール&設定ガイド』の「第 3 章 Builder でクラスタ構成情報を作成する」の「クラスタ構成情報を保存する」を参照してください。

クラスタ構成情報を FD に保存する

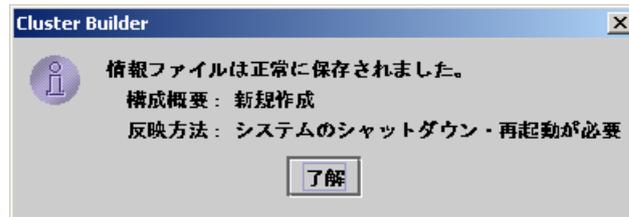
Windows マシン上の Builder で作成したクラスタ構成情報を FD に保存するには、以下の手順に従ってください。

1. FD 装置に FD を挿入し、Builder の [ファイル] メニューの [情報ファイルの保存] をクリックします。通常、FD の内部にディレクトリを作成せず、そのまま FD の直下に保存します。
2. 以下のダイアログ ボックスが表示されます。[保存] ボックスで FD のドライブを選択し、[保存] をクリックします。



注: 保存されるのはファイル 2 点 (clp.conf、clp.conf.rep) とディレクトリ 1 点 (scripts) です。これらのファイルとディレクトリがすべて揃っていない場合はクラスタ生成コマンドの実行が不成功に終わりますので、移動する場合はかならずこの 3 点をセットとして取り扱ってください。なお、新規作成した構成情報を変更した場合は、上記 3 点に加えて clp.conf.bak が作成されます。

クラスタ構成情報の保存が完了すると、以下のメッセージが表示されます。



- FD 内部を参照し、ファイル 2 点 (clp.conf、clp.conf.rep) とディレクトリ 1 点 (scripts) が FD の直下に作成されていることを確認します。FD 内部にディレクトリを作成し、その配下にこれら 3 点を保存した場合、クラスタ生成コマンド実行時、そのディレクトリを指定する必要がありますので留意してください。

FD を使用してクラスタを生成する

FD に格納したクラスタ構成情報を使用して、クラスタを生成します。以下の手順に従ってください。

- マスタ サーバとして指定したサーバに、クラスタ構成情報を格納した FD を挿入します。

注:

clpcfctrl コマンドは、デフォルトでは FD のデバイスとして /dev/fd0、マウント ポイントとして /mnt/floppy を使用します。デバイスやマウント ポイントが環境と異なる場合は、オプションを使用してデバイスとマウント ポイントを指定します。オプションの詳細は『リファレンス ガイド』の「第 4 章 CLUSTERPRO コマンドリファレンス」を参照してください。

- 以下のコマンドを実行して、FD に保存された構成情報をサーバに配信します。

```
# clpcfctrl --push -w
```

注:

- Windows 上の Builder で保存した構成情報を格納する FD (1.44MB フォーマット) を使用する場合、または Linux 上の Builder で保存した構成情報を格納する FD を使用する場合は、上記のように -w オプションを指定します。Linux 上の Builder で保存した構成情報を格納する FD を使用する場合は、-l オプションを指定します

```
# clpcfctrl --push -l
```

- FD 直下にクラスタ生成に必要なファイル (ファイル 2 点、clp.conf、clp.conf.rep とディレクトリ 1 点、scripts) が保存されていない場合、ディレクトリを指定する必要があります。

以下のメッセージが表示されます。

```
Need to shutdown system and reboot
please shutdown system after push. (hit return) :
```

- Enter を押します。
クラスタ生成が正常に終了した場合、以下のメッセージが表示されます。

```
command succeeded.(code:0)
```


第 3 章 通報の内容

本章では、CLUSTERPRO Alert Service から送信される通報メールの内容と、出力されるメッセージ、ログについて説明します。

本章で説明する項目は以下のとおりです。

- メール通報の動作..... 14
- パトランプ通報の動作詳細..... 14
- Alert Serviceのメッセージ一覧..... 15
- 障害時のログ出力..... 16

メール通報の動作

WebManager のアラートメッセージと同じ内容をメール通報します。どのアラートメッセージがメール通報されるかは、『CLUSTERPRO リファレンスガイド』の「第 11 章 エラーメッセージ一覧」の「syslog、Alert、メール通報メッセージ」を参照してください。

メール通報したいアラートを変更することもできます。詳細は、『CLUSTERPRO リファレンスガイド』の「第 11 章 エラーメッセージ一覧」の「メール通報の変更方法」を参照してください。

パトランプ通報の動作詳細

パトランプは、以下の場合に状態が変わります。

(1) サーバ起動時

サーバが正常に起動すると、緑を点灯します。

(2) サーバ終了時

サーバが正常に終了すると、消灯します。

(3) サーバダウン時

サーバがダウンしたとき、赤を点滅します。通報は、正常なサーバがほかの異常なサーバの状態を検出して送信されるため、全てのサーバがダウンした場合、最後にダウンしたサーバのパトランプには障害を通知することができません。

一旦点灯または点滅したランプは、クラスタシャットダウン時以外は消灯しませんので、消灯させたい場合は、下記のコマンドを実行してください。

パトランプ消灯コマンド

clpdn1000s	パトランプを消灯します。
-------------------	--------------

コマンドライン

clpdn1000s -h サーバ名

説明

指定したサーバ用のパトランプを消灯します。

オプション

-h サーバ名 消灯したいパトランプのサーバを指定します。
設定必須。

Alert Service のメッセージ一覧

WebManager のアラートビューや syslog に出力されるメッセージを以下に記載します。

正常な動作を示すメッセージ

ID	メッセージ	説明	補足
5 情報	The warning light report has executed successfully.	パトランプ通報が正常に行われたことを示します。	—

設定誤りなどで発生するメッセージ

ID	メッセージ	説明	対処
1 エラー	The license is not registered. (xxx)	ライセンスが登録されていないことを示します。	ライセンス登録を行ってください。
2 エラー	The trial license has expired on nn/nn/nn. (xxx)	試用版ライセンスの試用期限が切れたことを示します。	有効なライセンスを登録してください。
3 エラー	The registered license is invalid. (xxx)	登録されているライセンスが無効状態であることを示します。	有効なライセンスを登録してください。
4 エラー	The registered license is unknown. (xxx)	登録されているライセンスが不明な状態であることを示します。	有効なライセンスを登録してください。

パトランプ通報処理の異常メッセージ

ID	メッセージ	説明	対処
6 エラー	The execution result of warning light command was abnormal.(nn)	パトランプ通報コマンドで異常が発生したことを示します。	エラーコードに従って対処してください。
7 エラー	Failed to execute warning light command.(nn)	パトランプ通報コマンドが実行できなかったことを示します。	エラーコードに従って対処してください。

障害時のログ出力

通報機能自体の障害ログは、CLUSTERPRO サーバの障害ログと同じフォルダ下に出力されます。ログの採取は、CLUSTERPRO のログ採取と同じ方法で採取します。

WebManager を使用してログを収集する場合

WebManager のタイトルビューから[ログ収集]をクリックします。詳細は、『CLUSTERPRO リファレンスガイド』の「第 1 章 WebManager の機能」の「WebManager を使用してログを収集するには」を参照してください。

コマンドを使用してログを収集する場合

コマンド、`clplogcc` や `clplogcf` を用います。詳細は、『CLUSTERPRO リファレンスガイド』の「第 4 章 CLUSTERPRO コマンドリファレンス」の「ログを収集する」を参照してください。

付録 A 用語集

英数字

CLUSTERパーティション ミラーディスクに設定するパーティション。ミラーディスクの管理に使用する。
(関連) ディスクハートビート用パーティション)

あ

インタコネクト クラスタ サーバ間の通信パス
(関連) プライベート LAN、パブリック LAN

か

仮想IPアドレス¹ 遠隔地クラスタを構築する場合に使用するリソース (IPアドレス)

管理クライアント WebManager が起動されているマシン

起動属性 クラスタ起動時、自動的にフェイルオーバーグループを起動するか、手動で起動するかを決定するフェイルオーバーグループの属性
管理クライアントより設定が可能

共有ディスク 複数サーバよりアクセス可能なディスク

共有ディスク型クラスタ 共有ディスクを使用するクラスタシステム

切替パーティション 複数のコンピュータに接続され、切り替えながら使用可能なディスクパーティション
(関連) ディスクハートビート用パーティション

クラスタ システム 複数のコンピュータを LAN などをつないで、1 つのシステムのように振る舞わせるシステム形態

クラスタ シャットダウン クラスタシステム全体 (クラスタを構成する全サーバ) をシャットダウンさせること

現用系 ある 1 つの業務セットについて、業務が動作しているサーバ
(関連) 待機系

¹ 仮想IPアドレスはwindows版でのみ使用する概念になります。

さ

セカンダリ (サーバ) 通常運用時、フェイルオーバーグループがフェイルオーバーする先のサーバ
(関連) プライマリ サーバ

た

待機系 現用系ではない方のサーバ
(関連) 現用系

ディスクハートビート用パーティション 共有ディスク型クラスタで、ハートビート通信に使用するためのパーティション

データパーティション 共有ディスクの切替パーティションのように使用することが可能なローカルディスク
ミラーディスクに設定するデータ用のパーティション
(関連) CLUSTER パーティション

な

ネットワークパーティション 全てのハートビートが途切れてしまうこと
(関連) インタコネクト、ハートビート

ノード クラスタシステムでは、クラスタを構成するサーバを指す。ネットワーク用語では、データを他の機器に経由することのできる、コンピュータやルータなどの機器を指す。

は

ハートビート サーバの監視のために、サーバ間で定期的にお互いに通信を行うこと
(関連) インタコネクト、ネットワークパーティション

パブリック LAN サーバ / クライアント間通信パスのこと
(関連) インタコネクト、プライベート LAN

フェイルオーバー 障害検出により待機系が、現用系上の業務アプリケーションを引き継ぐこと

フェイルバック あるサーバで起動していた業務アプリケーションがフェイルオーバーにより他のサーバに引き継がれた後、業務アプリケーションを起動していたサーバに再び業務を戻すこと

フェイルオーバー グループ 業務を実行するのに必要なクラスタリソース、属性の集合

フェイルオーバー グループの移動 ユーザが意図的に業務アプリケーションを現用系から待機系に移動させること

CLUSTERPRO X Alert Service 1.0 for Linux 管理者ガイド

フェイルオーバー ポリシー	フェイルオーバー可能なサーバリストとその中でのフェイルオーバー優先順位を持つ属性
プライベート LAN	クラスタを構成するサーバのみが接続された LAN (関連) インタコネクト、パブリック LAN
プライマリ (サーバ)	フェイルオーバーグループでの基準で主となるサーバ (関連) セカンダリ (サーバ)
フローティング IP アドレス	フェイルオーバーが発生したとき、クライアントのアプリケーションが接続先サーバの切り替えを意識することなく使用できる IP アドレス クラスタサーバが所属する LAN と同一のネットワーク アドレス内で、他に使用されていないホスト アドレスを割り当てる

ま

マスタサーバ	Builder の [クラスタのプロパティ]-[マスタサーバ] で先頭に表示されているサーバ
ミラーコネクト	データミラー型クラスタでデータのミラーリングを行うために使用する LAN。プライマリインタコネクトと兼用で設定することが可能。
ミラー ディスクシステム	共有ディスクを使用しないクラスタシステム サーバのローカルディスクをサーバ間でミラーリングする

付録 B

索引

A
Alert Service, 1, 2
Alert Service の使用, 1, 3
Alert Serviceの使用開始, 3

C
clpdm1000s, 14
CLUSTERPRO, 3

O
OS, 3

W
[Warning Light] タブ, 9

あ
アラートメッセージ, 14

く
クラスタ生成コマンド, 5
クラスタプロパティでの設定, 8

さ
サーバプロパティでの設定, 9

と
動作環境, 3

は
ハードウェア, 3
パトランプ通報, 13, 14
パトランプ消灯コマンド, 14

ひ
必要メモリ容量, 3

め
メール通報, 13, 14

ら
ライセンス シート, 5
ライセンスキー入力でのライセンス登録, 5
ライセンス登録, 4
ライセンスファイル指定でのライセンス登録, 4

ろ
ログ出力, 16